

## 第 69 回定期総会 櫻井会長あいさつ

本日ここに、全国町村議会議長会第 69 回定期総会を開催いたしましたところ、奥野総務副大臣、古屋衆議院総務委員長、竹谷参議院総務委員長並びに荒木全国町村会長におかれましては、公務きわめてご多忙の折にもかかわりませず、ご臨席を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、都道府県会長並びに事務局各位には、遠路、揃ってご出席いただき、誠にありがとうございます。

本日の総会では、議事に先立ち、「平成 29 年度表彰」を行います。

自治功労者表彰を受けられる皆様は、永年の議会活動等を通じて地方自治の振興発展に顕著なご功績があった方々であり、また、町村議会表彰並びに町村議会広報表彰を受けられる議会は、全国の町村議会の模範となる活動が評価された団体であります。

ここに深く敬意を表しますとともに、心からお祝いを申し上げます。

さて、昨年末に決着した「平成 30 年度地方財政対策」では厳しい財政状況の中で、前年度を上回る 62.1 兆円の一般財源総額が確保されるとともに、地方交付税についても 16 兆円確保されました。また、歳出特別枠廃止に伴う措置として、公共施設等の老朽化対策の対象事業の拡充及び事業費の増額、さらには社会保障関係の単独事業費の増額に対応して歳出を確保されたことは、地方六団体の提言に沿ったものであり、野田総務大臣並びに奥野総務副大臣をはじめとする関係各位のご尽力に厚く御礼を申し上げます。

また、地方創生関係予算につきましても、「まち・ひと・しごと創生事業費」を引き続き 1 兆円確保いただくとともに、「地方創生推進交付金」を前年度と同額の 1,000 億円を確保されるなど、地方の意見を汲み取っていただき、厳しい財政事情の中で、地方創生に取り組む町村にとっては心強い予算であると感じております。

一方、地方議会全体の課題である厚生年金制度への地方議会議員の加入につきましても、国民の幅広い政治参加や地方議会議員を志す新たな人材確保のためにも早期に実現させなければなりません。

過日、自民・公明の与党両党の幹事長・国会対策委員長会談において、「今通常国会での法案提出を目指して検討する」との方針が取りまとめられたと聞き及んでおりますが、厚生年金制度への地方議会議員の加入は、地方議会三団体の悲願でございますので、法案の早期提出・成立に向け、関係各位のご理解とご協力をお願いするものであります。

加えて、ただ今、申し述べました予算関係法案及び厚生年金への加入のための関連法案等が上程された際には、これら法案の早期成立に向け、古屋衆議院総務委員長並びに竹谷参議院総務委員長におかれましては、国会審議につき特段のご高配を賜りますよう重ねてお願いいたします。

また、現在問題となっている議員のなり手不足問題を背景として、総務省において研究会を設置し、町村総会のより弾力的な運用や町村議会のあり方について検討を行っていただいておりますが、私は人口の多寡にかかわらず、全ての町村議会が住民を代表する議決機関としての責務を果たし、将来に向かって存続しつづけるための方策を、現場の声を十分に踏まえ、模索すべきであると考えております。

私が恭敬する天台宗の開祖・最澄の言葉に「一隅を照らす、此れ則ち国宝なり」という一節があります。

この言葉を、現在の心境に置き換えるならば、「全国 927 の町村議会がひとつも欠けることなく、明るく光り輝くことのできる社会こそが、何物にも変えがたい貴い国の宝になる。」となりましょう。

我々町村議会議長も小さいながらも自主・自立の精神をもって、それぞれの地域の振興を図るため、議会改革に努め、住民の信託に応えられる議会を構築して参る所存でありますので、ご来賓各位におかれましては、この点を何分にもご理解いただき、引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、ご出席の皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げ、定期総会開催にあたってのご挨拶といたします。

平成 30 年 2 月 8 日

全国町村議会議長会会長 櫻井 正人